奪われてなるものか

——施療病院にて——

今野大力

青空文庫

君はおれの肩を叩いてきいてくれる
君は親しげなまざしでおれを見る
おお君はいつもおれの同志
おれたちの力強い同志

しかしおれには今
君の呼びかけたらしい言葉がきこえない
君はどんなにかあの懐かしい声で
留置場からここへ帰って来たおれに
久方ぶりで語ってくれたであろうに
おれには君の唇の動くのが見えるだけだ
パクパクとただパクパクと忙しげな
静けさ、全く静けさイライラする静けさ
扉の外に佇(たた)っていたパイの跫音(あしおと)も聞えない
何と不自由な勝手のちがった静けさか

音響の全く失われたおれの世界
自分の言葉すら聞えず忘れてゆこうとしている
おれは君と筆談だ、君は書く
――おれたちは来る六月十九日の文化連盟の
拡大中央協議会を攻撃の中に開催すべく闘っている。
よし君の言うのはわかる
――おれの耳を奪ったのはあいつ××だ
おれは奴らのテロで耳を奪われたが
××は腕を折られた、足腰も立てなくなってる。
――そうだ奴らはおれたちの側の耳を奪い
手足までも奪ってしまおうとしているのだ
おれたちはそれを奪い返そう
引ったくってやろう
奪われてなるものか
それが後に残った者達の重大な仕事だ。
おれは耳を奪われたしかし

君の文字が伝えてくれるおれたちプロレタリアの側の熱意が
こんなにハッキリわかるのが実にうれしい
おれには何時(いつ)知らず熱い涙が目尻(めじり)を流れていた
――おお　おれたちの同志しっかり！
おれもやるぞ！

（一九三二年六月作『文学新聞』同年七月十五日付に発表）

青空文庫情報

底本：「日本プロレタリア文学集・39　プロレタリア詩集（二）」新日本出版社
　1987（昭和62）年6月30日初版
底本の親本：「文学新聞」
　1932（昭和7）年7月15日
初出：「文学新聞」
　1932（昭和7）年7月15日
入力：坂本真一
校正：雪森
2014年5月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

奪われてなるものか

——施療病院にて——

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　今野大力
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/